

九州大学では、業務の効率化・合理化に努めつつ、アジアを重視した世界的研究・教育拠点として、グローバルに活躍するリーダーを輩出し続けるとともに、人類が抱える諸課題の解決や地域の持続可能な発展に資する様々な取組みを展開。

・「**統合新領域学府**」を設置し、「オートモーティブサイエンス専攻」、「ユーザー感性学専攻」という他に例のない新しい大学院専攻で**出口を見据えた教育研究**を実施。
(「ライブラリーサイエンス専攻」設置を計画中)

・「数理学研究院」における**産業界との協働による人材育成**
企業内意識の変化、数学博士が産業界で活躍
(「マス・フォア・インダストリ研究所」設置を計画中)

・1枚でセキュリティレベルの異なる複数のサービスが受けられる
「社会保障カード」を開発し、実用化に向け**自治体と実証実験**を実施

・**環境・エネルギーキャンパスの構築**
(例 次世代エネルギーの開発・導入、CO₂排出量やエネルギー消費量の「見える化」等)

国際競争力 低下の危機

総人件費管理の中
診療時間の増加により
研究時間が減少



- ・博士課程入学者数が年々減少
- ・人口百万人当たりの博士号取得者数は欧米や韓国に比べて低水準

- ・博士課程進学を検討する際の最重要条件は「**経済的支援の充実**」
- ・博士課程学生の7割近くが何らかの経済的支援を受けているが、**授業料免除を含めても年間平均80万円程度**。
- ・留学生の多くは給付型の奨学金を受給しているが**日本人学生への奨学金の中心は返済型**。

研究開発関連規制 による様々な制約

- ・主要臨床研究雑誌の**論文掲載数が近年減少**
- ・優れた基礎研究の成果・論文が多く創出されているが、**ヒトでの安全性・有効性を確認する臨床研究につながっていない**

例) 我が国では「高圧ガス保安法」等の規制により水素エネルギー分野の研究開発が制約されており、**水素ステーション等のインフラコストは欧米の数倍(国際競争力なし)**。欧州では既に街中にセルフ・スタンドがある。

大学がより効果的に我が国の経済成長に寄与できるよう
教育・研究、診療活動を取り巻く隘路を解消することが必要

提案1

<人財力の強化>

博士号取得者が多様な場で活躍する社会を目指し、

「**職としての博士課程**」に向けた環境の整備

(例 優秀な博士課程学生(1/3程度)に生活費相当額の給与を支給できるような新たな仕組みの構築)

提案2

<ライフ・イノベーション>

基礎研究の優れた成果が新薬・新治療法の創出につながるよう

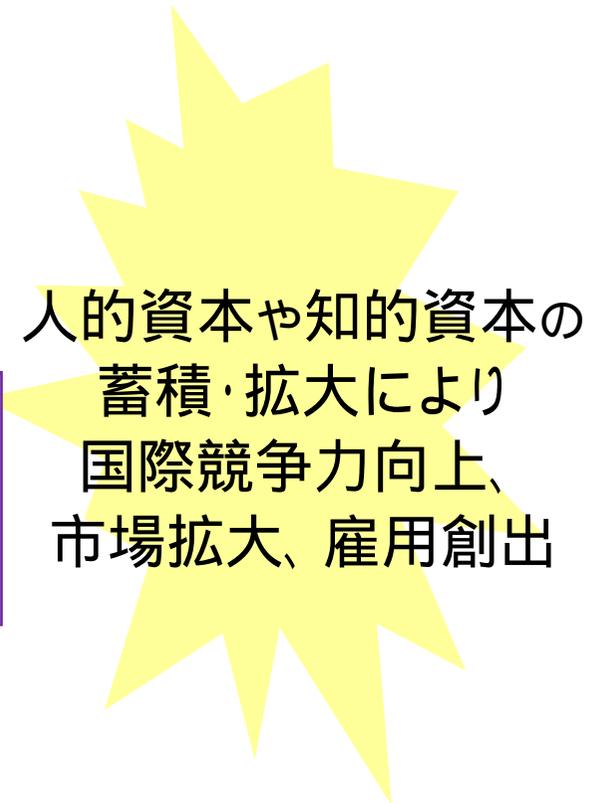
大学の臨床研究体制を強化

提案3

<グリーン・イノベーション>

安全・安心の確保に留意しつつ、イノベーション促進や国際競争力

強化の観点からの**諸規制の合理的な見直し**が必要



人的資本や知的資本の
蓄積・拡大により
国際競争力向上、
市場拡大、雇用創出